

## 令和4年度データサイエンス・ベーシックプログラム

## 点検・評価報告書

**1. カリキュラムについて**

当該プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」において、リテラシーレベルに認定されている。このため、当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定めるリテラシーレベルの内容を教育しているかについて、当該科目の構成科目である次の科目のシラバスで点検を行った。

- データサイエンス総論 I
- データサイエンス総論 II

上記科目のシラバスにより、当該プログラムは文部科学省が定めるリテラシーレベルの学修内容を含んでいることが確認できた。データサイエンス総論 II は 21 科目が開講されているが、すべての科目で同じデータを使って演習を行っている。各学部の専門教育と当該プログラムのカリキュラムを連結させると教育効果が高まることが期待できるため、今後はデータサイエンス総論 II の演習内容を各学部の専門分野に関連したものに変更することを検討するべきである。

**2. 履修状況について**

本学では、入学者数がおおよそ 2300 人のところ半数以上の 1295 人が当該プログラムを修了している。医学部医学科と教育学部の学生は、データサイエンス総論 I とデータサイエンス総論 II が必修科目であるため、ほとんどの学生が当該プログラムを修了している。他の学部も入学定員の半数以上の学生が当該プログラムを修了していることから、本学では理系学部だけでなく、文系学部でも半数以上の学生がリテラシーレベルの教育を受けていることが確認できた。

文部科学省は全国すべての大学生、高等専門学校生にリテラシーレベルのデータサイエンス教育を実施することを目標としているので、各学部のガイダンスで当該プログラムの履修を呼びかけるなど、当該プログラムの履修者を増やす努力が必要である。

**3. 授業評価アンケートの結果について**

データサイエンス総論 I は 23 科目、データサイエンス総論 II は 21 科目が複数の教員により開講されており、各科目の授業評価アンケートを点検した。多くの科目において、学生は真面目に授業に参加し、シラバスに書かれている到達目標を達成できたと考えている学生が多いことが確認できた。また、授業内容は整理されていて、教員のプレゼンテーションも明瞭であったことが確認できた。一方、「学生が積極的に議論や協同作業すること」や「教員が学生の発言を促す」の評価については、一部の科目では評価が高かったが、多くの科目では評価が低かった。このため、担当教員間で授業方法の情報共有を行い、授業改善が必要と考える。さらに、授業改善について検討した結果を学内で共有する

ことを希望する。

#### 4. まとめ

当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定める数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度のリテラシーレベルの内容を含んでいることが確認できた。今後は、当該プログラムを履修する学生を増やす努力が必要と考える。また、授業担当教員で授業方法を共有し、授業改善を行う必要がある。

令和7年3月31日

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム評価委員会